

病理診断部

1. スタッフ（平成28年4月1日現在）

| | |
|----------|-----------|
| 部長（教授） | 福嶋 敬宜 |
| 副部長（准教授） | 大城 久 |
| 医員（教授） | 仁木 利郎（兼務） |
| | 田中 亨（兼務） |
| （准教授） | 金井 信行（兼務） |
| （准教授） | 松原 大祐（兼務） |
| （講師） | 河田 浩敏（兼務） |
| （講師） | 吉本多一郎（兼務） |
| （学内講師） | 仲矢 丈雄（兼務） |
| （助教） | 森田 剛平（兼務） |
| （助教） | 天野 雄介（兼務） |
| シニアレジデント | 5名 |

| | |
|----------|--------------|
| 技師（副技師長） | 芳賀 美子（兼務） |
| （主任） | 星野真紀子（兼務） |
| （主任） | 鈴木 智子（兼務） |
| （主任） | 本望 一昌（兼務） |
| ほか、技師 | 12名、事務員 2.5名 |

2. 病理診断部の特徴

病理診断部は、自治医科大学附属病院の中央施設部門に属し、自治医科大学附属病院および一部さいたま医療センター（腎生検の電子顕微鏡検索用検体）で採取された検体について生検診断、細胞診断、術中迅速診断、外科切除検体の病理診断、および剖検診断などを行っている。

病理診断部では、提出されたすべての検体について病理医による適正な標本処理、必要十分な切り出し、病理検査技師による質の高い標本作製を行い、最終的に病理診断専門医による顕微鏡標本の観察、ダブルチェックを行って病理診断報告を行っている。

また、必要に応じて免疫組織化学的検索、蛍光抗体法、電子顕微鏡検索、PCR解析を行い、複数の病理医による相互チェックを経て病理診断報告書（診療端末閲覧）を作成している。

診療における病理診断の関与が特に大きい呼吸器、消化器、乳腺、口腔・耳鼻科系などを中心に、臨床病理合同カンファレンスを行い、病院の診療レベルの向上に寄与している。

病理診断部は、医学部および研修医教育の一部も担当している。医学部では、臨床病理カンファレンス（CPC）（M4, M5）全15回を行い、必修BSL（M4）、選択必修BSL（M5, M6）の学生も受け入れている。

また、消化器内科からの希望で、医師1名を週1日、病理診断研修のために受け入れている。

さらに、各科の研究支援の一環として、病理パラフィ

ンブロックや組織スライドガラス標本の貸し出しや管理を行っている。

・施設認定

日本病理学会認定施設
臨床細胞学会認定施設

・認定医

日本病理学会専門医：福嶋 敬宜 ほか10名
（内、口腔病理専門医1名）
臨床細胞学会専門医：福嶋 敬宜 ほか7名

3. 実績・クリニカルインディケーター

1) 病理診断件数の動向

平成27年における生検診断は15,313件、細胞診は18,772件、術中迅速組織診断は884件、電顕264件、剖検診断は35件である。昨年からはほぼ横ばいであるが、剖検数は昨年やや増加していたが、また減少した。免疫組織化学検査件数は最近の約5年で1.5倍を超えたが、依然増加中である。細胞診は件数では大きな変化はないが、超音波内視鏡下針穿刺吸引細胞診の件数は増加し安定している。治療選択に大きな影響を及ぼすことから、臨床科との密な連携を心掛けたい。

2) 部門統計（2015年）

| | |
|----------------|-----------------|
| ■病理組織診断件数： | 15,313件 |
| 標本ブロック数 | 72,733個 |
| ヘマトキシリン・エオジン標本 | 122,418枚 |
| 特殊染色 | 26,879枚 |
| ■迅速診断： | 884件 |
| ブロック（検体）数 | 1,652個 |
| ■細胞診件数： | 18,772件、40,756枚 |
| パパニコロー染色 | 36,241枚 |
| 特殊染色 | 4,445枚 |
| <検体別の件数> | |
| 婦人科関連 | 11,293件 |
| 呼吸器 | 1,748件 |
| 泌尿器 | 2,560件 |
| 甲状腺 | 313件 |
| 乳腺 | 273件 |
| 消化器 | 301件 |
| リンパ節 | 258件 |
| 体腔液 | 1,734件 |
| 他 | 292件 |
| ■電子顕微鏡検索： | 264件 |
| ■免疫組織化学染色： | 2,623件 |
| Her 2 蛋白検査件数： | 576件 |

| | |
|---------------------------|------|
| ER&PR : | 533件 |
| ■蛍光抗体法検索 : | 215件 |
| ■Insituhybridization法検索 : | 98件 |
| ■FISH法検索 : | 74件 |
| ■病理解剖診断 : | 35件 |

3) 病理診断精度管理について

小手術検体や生検検体の切り出しについては、病理医と臨床検査技師が相互に検体と検査申込書を確認しながら共同で、外科手術検体については病理医が検査申込書を参照しながら行うようにしている。

組織診断報告は、講師以上の認定病理専門医によるダブルチェック体制で行っている。

免疫組織化学染色標本は、担当技師と病理医が、毎日、その日のすべての標本について、染色性の妥当性について評価した後で診断医に渡すようにしている。

細胞診は、スクリーナーによりダブルチェックを行い、少しでも異常所見のある標本（クラスII以上）については全ての症例をスクリーナーと認定病理専門医とのディスカッションを経て、最終報告している。

業務改善、インシデント発生防止のためには、病理専属技師と病理医の連携も重要であり、毎週月曜日の午前8:20から部長、副部長、副技師長、主任技師による連絡会を行ってその週の予定などの確認や問題点の抽出などを行い、さらに毎月第2週目の木曜日午後5:15からは部長、副部長と技師全員参加による病理診断部連絡会議を開き、検体の流れや業務環境の改善に関する検討などを行っている。

4) 臨床病理カンファレンス

1) 剖検肉眼所見検討会：毎週水曜日午前9:00から、臨床担当医の参加のもと、剖検症例のマクロ所見の検討会を行っている。

2) 剖検症例総合検討会：毎月第2・第4水曜の午後5:00より開催している。

3) 病院CPC（臨床病理カンファレンス）：卒後臨床研修センター主催で年3回ほど病院の全職員を対象とした剖検症例検討会が行われており、症例の選択、病理解剖所見の提示や討論で主要な役割を果たしている。

4) 放射線科・病理カンファレンス：毎週金曜日午後5:00から放射線科カンファレンス室で行っている。

5) 呼吸器内科カンファレンス：毎週火曜日午前8:00から、病理医が参加し、必要に応じて症例の病理像を解説している。

6) 消化器外科・内科・病理合同カンファレンス：2カ月に1回、木曜日午後6:00から開催している。

7) 乳腺カンファレンス：隔週、火曜日

4. 研究業績（医師以外）

◎学会・研究会発表

1. 飛田野清美, 二階堂貴章: 顔面神経麻痺を合併した心アミロイドーシスの1例. 第12回東京心臓病理フォーラム,

2015年3月15日, つくば。

2. 飛田野清美, 二階堂貴章: 多発性脳病変と拡張型心筋症様の形態を呈した若年女性の心筋症. 第12回東京心臓病理フォーラム. 2015年3月15日, つくば。

3. 飛田野清美, 二階堂貴章, 本望一昌, 芳賀美子: 電顕所見が有用であったHermansky-Pudlak症候群の1例. 第64回日本医学検査学会. 2015年5月15-16日, 福岡。

4. 飛田野清美, 二階堂貴章, 本望一昌, 芳賀美子: 電顕で不思議な構造物を観察したFabry病の1例. 平成27年度日臨技関甲信支部医学検査学会, 2015年10月17-18日, 長野。

5. 飛田野清美, 二階堂貴章, 本望一昌, 芳賀美子, 江口和夫, 福嶋敬宜: 心内膜下心筋生検の電顕標本の作り方と将来への展望. 第35回栃木県医学検査学会, 2015年11月1日, 栃木。

6. 伊藤聡史, 福島愛理, 郡俊勝, 鈴木智子, 森田剛平, 福嶋敬宜: 脾液中に腫瘍細胞が出現した破骨細胞様巨細胞型退形成癌の3例. 第54回日本臨床細胞学会秋期大会, 2015年11月21-22日, 名古屋。

7. 福島愛理, 伊藤聡史, 郡俊勝, 鈴木智子, 森田剛平, 河田浩敏, 福嶋敬宜: 悪性との鑑別を要したAtypical polypoid adenomyomaの2例. 第54回日本臨床細胞学会秋期大会, 2015年11月21-22日, 名古屋。

◎その他

1. 福島愛理: 平成27年度栃木県細胞検査士会勉強会（講師）. 2015年11月7日, 栃木。

2. 伊藤聡史: 平成27年度栃木県細胞検査士会勉強会（講師）, 栃木。

5. 事業計画・来年の目標

1) 業務向上（効率化, 迅速化, 質向上）

大きなインシデントは防げているが、小さいものは散見される。引き続きインシデントが起こりえない作業手順など防止、業務環境改善を図りたい。

2) 次世代自治病理プロジェクト

平成30年春の新棟への移転を前に、将来の病院機能への一層の貢献を目指して、将来のあるべき病理診断部門の姿を考える、「次世代自治病理プロジェクト」を病理診断部内に昨年立ち上げ、医師・技師混合で具体的な議論を行ってきた。今年は、医療安全、デジタル病理の導入についての検討、業務負担の不平等感の是正などを主体に話合っていく予定である。

3) 病理診断部からの情報発信

病理診断部からの部外への情報発信はホームページ、ニュースレター（PATHO News）によって行っている。今後も、継続して情報発信を行い病理診断業務について、関係科の方々の理解が得られるようにしていく。

4) 勉強会・カンファレンスの充実

昨年は、新たに口腔外科、耳鼻科領域カンファレンス、婦人科勉強会への病理専門医スタッフの参加が実現したが、今年は、脳腫瘍に関する臨床病理カンファレンスへのスタッフ派遣を実現させたい。